

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ
令和 4年 4月 8日(金)
通算 218号

◇ 令和 4 年度の大軸 【正しく鍛える身と心】とともに

8名の新入生と3名の職員を迎え、常磐東小学校の令和4年度がスタートした。始業式で子供たちに伝えた今年度の指針は以下のとおり。

【目標】 正しく鍛える身と心

キーワード：心身鍛錬

【方法】 ① あたりまえのことをあたりまえに行う

：あたりまえ

② 求めて励む（校訓）

：求励・励行

③ 力の限り

：力の限り

目標は本校校歌の2番の歌詞、方法①は2年間伝え続けてきたこと、②は本校の校訓と、いずれも児童になじみ深いものばかり。これに方法③「力の限り」を加え、令和4年度の大軸とした。

< 【正しく鍛える身と心】について >

本校校歌の肝であり、私自身が最も大切にしている部分である。

学校教育は、子どもが集い、刺激し合い、励まし合い、切磋琢磨し合うことによって社会に貢献するための素地を養う場である。つまり学校は、遊びを主体とする園教育から段階を上げ、家庭から離れて本格的に他者とかかわりながら人間性を高める初期段階の鍛錬の場だ。



集団の中で個を認識しながら他への貢献を考え始める学校での学びは、子供の心身の成長、特に豊かな人間性の涵養かんように大きく関わる。

校歌二番の歌詞の一節【正しく鍛える身と心】は、このことを子供たちにも分かりやすい語彙ごいで伝えてくれている。

「正しく」を解釈すると、本来の意味である「正統的」や「正義感・公正」に加え、【着実に】【地道に】【粘り強く】【確かに】【至誠しせい】といった要素も含んでいる。つまり「正しく」は、6年間の学びで継続的に養い、高めることを示している。

だから、＜方法＞は簡単なもので、少しだけ意識すればできるものがよい。

そう考えれば、方法①「あたりまえのことを あたりまえに行う」は、正しく心身を鍛えるための最良の近道ともいえよう。

自分にとっての「あたりまえ」が何であるか、何を「あたりまえ」にしたいかを自分で考え、継続して実践する。意識しないでできるまで実践し続ければ、本物の生きる力となって生涯にわたって発揮できるだろう。



「あいさつをする」「早寝早起きをする」「はきものを揃える」など、「あたりまえ」は何でもよい。大切なのは、意識しないでできるまで「地道に」「粘り強く」「丁寧に」行い続けることである。

昨年度は各個人の「自分のあたりまえ」に加え、「学級のあたりまえ」をつくる動きが見えた。個から小集団へのステップアップである。こうした動きは、子供の意識の持続化とともに実践のレベルアップにもつながる。実に嬉しい動きだ。

方法②の「求めて励む」は、これまで本校の課題であった部分。

任された仕事や役割はしっかり取り組んで責務を全うできるが、「気付き、自ら進んで事にあたる」ことに遠慮がちであったが、最近はずいぶんとできるようになってきた。

子供たちそれぞれが校訓を意識することで、さらなる伸長へとつながるだろう。

新たに加えた方法③「力の限り」は、校訓「求めて励む」とともに子供たちの活動を支える「合言葉」として掲げたものだ。担任時代の終盤、8年のうち7年にわたって学級訓として掲げた私自身の学級づくりの信条でもある。

「あいさつに【力の限り】」 「【力の限り】あいさつする」

「運動会に 【力の限り】」 「【力の限り】運動会に取り組む」

など、「力の限り」は活動の接頭と接尾、いずれにもつなげられる使い勝手のよいキーワードである。方法①の「あたりまえ」と併せることで、子供の活動意識の増進へとつなげることをねらいとしている。

どんな場面でも「力の限り」に、そして「自ら進んで活動に取り組む」。さらに「あたりまえのことを あたりまえに」続けていけば、健やかで逞しい体と清らかな心を備え、豊かな人生を歩むことができる。

今年1年、いや小学校6年間、いや生涯にわたる子供たちへの期待でもある。